

## あとがき

「人生とは自分自身が脚本を書き、主役を演じるドラマだ」と著名な経営者も言っておられます。その人生脚本を正面から取りあげたTAは素晴らし学問であると思います。しかも、難しい人間の心を、分かり易く、日常的な馴染み深い言葉を用いて段階的に解説され、その通奏低音には「人は温かさの中で成長する」という愛の旋律が流れ、暖かい学問だと私は感じ、親しんできました。

今回の改訂に際して、最初に手にした本はやはり池見酉次郎先生の「セルフ・コントロール」初版1974年版でした。エリック・バーンが論文をまとめ「心理療法における交流分析」が出版されたのが1961年です。池見酉次郎先生は早くからその理論を研究され、それが病人の治療のみでなく、育児、教育、集団における人間関係の改善など、その応用範囲も広く实际的であることを検証されて発表されました。この初版の「まえがき」や本文の至るところにある日本社会への洞察は今も新鮮で頭を垂れます。

実業界では、私の恩師である岡野嘉宏先生（1937~2007）がいち早く大手企業向けのTAセミナーを始められ、1977年に「新しい自己への出発」を刊行されて、今でも多くの方に愛読されています。私が岡野師の門戸を叩いたのは1987年で、逝去される迄の20年間身近で温かいご指導を頂きました。1990年に田舞徳太郎氏（日本創造教育研究所創立者）のお招きで私がTA講座を担当させて頂くことになり、その準備を重ねるなかでテキストの必要性を感じ1991年に初版を発行しました。

昨今の多くの政治家による言葉に残したくない行為や青少年のひきこもり、乳幼児をめぐる諸問題等は小資源、少子高齢化が加速している我が国にとっては喫緊の課題にもかかわらず、経済優先傾向の強い現代社会にあって、子育ては二の次という考えが浸透しています。専門家がこの現象に警鐘を鳴らすのが難しい時代になっており、凡人の私に出来ることは何かを考えておりましたところ常深信彦兄にまたしても背中をおされ再改訂版を出すことを決断した次第です。

TA関係の出版も盛んになり、エリック・バーン博士の後継者の一人であるイアン・スチュアートによる「フロイト、ユング、アドラーを超える心理学・エリック・バーンの交流分析」が2015年日本交流分析学会から邦訳出版され、更に、同年「交流分析にもとづくカウンセリング（再決断療法・人格適応論・感情処理法をとおして学ぶ）倉田宣佳著・ミネルヴァ書房刊は増版を重ね、大きな反響を呼んでいます。

2018年には「What do you say after you say hello?」（エリック・バーン 人生脚本のすべて）の完全邦訳が星和書店より出版されて、TAを深耕される方に朗報が点灯しています。初心者向けには杉田峰康先生の筆による「3つの自分で人づきあいがラクになる」と題する書籍が創元社から出版されTAの普及が続いています。

本書刊行にあたって常深信彦大兄及び「本の研究社」大野 彰さまの絶大なご支援を賜りましたこと深く感謝いたします。本文ストロークの実例を記し、さらに多くの資料を提供して下さった社会福祉法人・こころの故郷・園長・酒井智子さんに深甚の感謝を申し上げます。

又、長期間に渡り、再三の変更を快く引き受け原稿の整理入力校正に力を注いで下さった森下綾姉、声に出して読み上げ校正して下さった吉岡由美子姉、そしてイラストを提供して下さった古沢みどり姉、馬場建人君に重ねて御礼を申し上げます。共に歩み、深い愛と厳しいアドバイスで本書の完成に協力してくれた妻に深甚の感謝をします。